折枝喜迺友 初編

83

へ利9特
3869
27

折梶喜迺友 初編

特
9利へ
3869
27

特
へ利9
號 3869
冊 27

大正七年三月吉寄
室井平藏氏贈

梅壽の友初編

序

角觝並ひや稚のあそび錦
書き書き毛筆ひとしきりはの
花枝角ゆゑかく四季折々西
言の葉も日々にあらたな

自毎月の事を日々記
登利治人事を御義出給
相模の津と郡土信の式和尓
如雲法免しもちら法師の
積しを交りて集免事
拙者の友と郡て冊子の和編

尓津と利素面白様昌様事
此道西栄んを我当後篇の
自如と事語学色

聖松葬早穂

安政四年
うら秋雲移

擬喜の友初編

竿輔評　　雪輪連藏板

ムクハイ

五十五、暗らゝ桟橋の柳吾妻とま　静風
、向きを先ゝ初メ参る家人去　仝
、寄まる座稽古者ゝ者家歌　豊秋
六十、むゝらり御升赤さん〳〵祝ふ精　早喰
七十、雲脚も早く去歩行今ふ為　金糸
七十五、麦湯一ッ持込て居る涼　早喰

八十五、娘の例へ辞ふてとまるる香ゃな酒　静風
九十五、動せる子芝居茅ひ合ふ恵ク阪ン　路宮

ウチハウ

五十五、内を裏中　山ゑンと面　を嫁　路芝
六十、乳母い子の背恵を一ケ〳〵拝〳〵告ク　松琴
六十五、賣初メ歩廊客のとくちまつる和　梧月
、　打水落る庵樹くの葉ふ蛍　深波
九十、詰ふ落る掘口ど考このと死火の回　南木

トヒヤウ

六十、飛ふ蛍ゆとまんしの内うゆ　楽浪
六十五、取る竿ル二千刈ま不蛍ル雨後の水　南木
一百、ゑりませう扇風奉和ふ背と裏　楽砕

冠り　青。天

六十、書イ和歌付　大根の小壱寸　梧月
六十五、書ゑ回禁ウ鉢森色宗ゑ立ゑ　掛翁
八十、言恵ゑ小云壱ル動来ぬ書の甲ク　錦栄

れ以　十　日

七十、張ル十文字糸這入ル　紙日陰ク　早水

笠萬評

ムハイ

五十五、娘の例へ酔ふと奪ふ酒　静風
六十、多利智り少蕪の揚枝も入れ　早峰
六十五、時ふる機構の柳やなとふ　静風
一百、鐘を書ふと分ケ奪ふ因全道　南木

ウチバ

五十五、深ハ字も一度ふて音撥も書　桐花
六十、落伏粧多度ふ付きも若イ賞　由高

六十、瓜二ツ遠ふ知新の第ひ奪　千鳥
七十、梅干シ肉へ入レふ置てふ　雨　早峰
八十五、動ふ脇ふ森新ふて慨歳ふ　桐花
九十五、深ハ字れ異廉を支ふ方全第ふ端　南木

トヒヤ

五十五、土手の風ヒヤリ表根の極井戸　素旋
七十、飛ひ石ふ干ぬ陽シ粧ふ中凉ー　桐花
七十五、間ふる鉢少入ふ煙る楊枝の毛　南木

経ル　青。天

五十五、[illegible]　桃園
六十、天鵞絨　[illegible]　向イ酒　南木
、　玉杯の沿先き貝高ク[illegible]の荷　里雪
六十五、天鵞の物を女丈ケ[illegible]の付ク子　路宮
、　雪の葉の蔵る沿所[illegible]　錦江
九十、雪の葉　[illegible]　陸高ク　立

れ込　十日

五十五、日蔭　紋ン上ク　[illegible]く　[illegible]り十　能　遠陸
八十、二り　癸　嫁も　十九の土用　[illegible]　靜風

梅枝評

ウハイ

五十五、栗の花　[illegible]　[illegible]　栗舟
、　組合せ沿る　[illegible]　一の谷　南木
、　むせる　[illegible]　[illegible]　路言
六十、[illegible]　梅小　[illegible]　遠陸
一百、若男　一チ倍イ　能イ嫁　[illegible]　不二丸

ウチバ

六十、梅巻き小　[illegible]　[illegible]の浦　浴衣　不二丸

六十五、[illegible]紅粉猪口[illegible]　花魁

、　旨イ世事ー初物尽ハ生キ延る　錦江

、　乳母ハ子の智恵を一ツ〳〵毎〳〵告ル　松琴

九十、深ハ[illegible]の黒痣をそそ[illegible]　南木

トヒヤ

六十、[illegible]角ハ一ツなりてこうして　砂　静風

八十、ごまとしてゐる梅ゑ天恵をうかり孫　豊秋

八十五、[illegible]ふ[illegible]の内[illegible]　樂孫

冪　青。天

五十五、書[illegible]ぐり暑イ日の炎暑　早蕨

、　天王洲なり神書を[illegible]　夢見

六十、天井[illegible]の言葉居　錦江

七十、[illegible]越ー[illegible]風源ー月の極　学好

七十五、天光弟子ホ水変の[illegible]も特場　一寛

九十五、書[illegible]の魚生キ[illegible]居[illegible]ひ　可祝

初込　十　日

七十、日[illegible]殺ー上りを[illegible]　遠陸

笠萬評

六十五、宗義を撫で込む猫の足の稽古　遠陸

、ウタ〳〵切義を書く藤の蔓　琴松

八十五、籐を吹く子の撫で上げふくれて行く　錦江

九十五、和泉の琴ひつくりかへす夫婦連れ　静風

カタメテ

五十五、張り子懐中おさまらぬ眼を書いて　里松

がくりかう下駄をタアと糸ぬ眼のくぼむ　一寅

六十、彫りの立体上る眼鏡　錦葉

、仮りの見ン壹升箱に出る好き　錦江

七十、加勢殿方の手強ョ酌　文

、角を猪の面の字ふくれ目ふ笑ム　静壹

一百、宴北札に日ふ割れの出る極暑　南木

タチアヒ

五十五、地口足る見えト黒イ　犬　一寅

六十五、ちくでアのつる扣ちもと目と花火　金糸

九十、真番、上ちて壹扇ち笑る計　安茂

雪　取。組

五十五、取る度に手紙のぬるく床に　錦江
六十、所々に人者ホ寄の嵐ム　枝　素柱
、　ぬり込む梅も六分ノ雪蔵て為　栗舟
八十、組ム指ヒの湯も仲らしのふハぬる　海波

杉色　大入

六十、大人今　坊ッ和ホ入り　糠糠つま　乙雪
七十五、大串も　遠入る　樂屋の　重袁り　南本

早　独　評

シコフミ

五十五、師匠も　赤松ン　種蒔を　実たくの子　錦江
六十、紫蘇を　搗き込む　猫の足の　搽　遠陳
、　蓼尾ガ　ホ　赤ン　粉の　艶ヤ　持て　足毛　灯　静意
六十五、者ヤと　入　相ホ　大　七を　出　舟　袁　新造
七十、快　雪る　子ホ　任　者の　道　ぬ　て　南本
八十、ちんがり　下戸も　幾度　袁ン　足る　二階　新遠
九十、稽ホ　猫も　寿き　蓼た　分の　果報　路素

一百、温泉津ハ子の為幾度尋ネ出外ト　遠壁
カタメテ

六十、板書り掘角ノ月を見ハ出る枝形　南木
六十五、霞ム眉鹽ヘ不二の目立ッ雪　静見
タチアヒ

五十五、神水茶のお手洗ひき一人書　新造
、ちやくくとはんよ雪踏て廣イ庭　松琴
六十、地口尽る見え星イ〻ぐらり　如一宝
、夏暑へはのけて国麻ハ光る計　高義

六十五、猪牙早ノ船風次やりく　肌　豊秋
軍　取。組

五十五、取り次ぐ子形ハ猪口ハ遠ヒ　声泉
七十五、取ッて黄ッを茨を尽る泪の眼　早俗
九十五、所ノ恋ハ雲ハきたふの計色て　素抱
五十五、組ム糸の糸ハ心くつきり十五六　春泉
形色　大入

八十五、今　大手祇園入ッ帯ル所ニ　早盛

柏枝評

シコフ

五十五、河ゝ底苔下駄を子の踏こと除　不二丸
六十、メるた鮫ゝ折てを子の足せる市　新造
六十五、種くを氏浦人風海ゝ月ゝ絡　早水
七十、注進ふ風ゝ源ゝき　出　板川　狩栄
八十五、宗藤我ゝを凹　編綿の足薄　禅　遠陸
九十、下タ〳〵　切義を置ゝ結ゝふゝり　嬢　琴松
一百　篠を吹くゝふのもゝとふゝ行　綿江

カタメテ

五十五、門口〳〵抱イて〳〵　孤ゝし　出　兼　姫　楽　斜
六十、加勢イ殿ゝ多ゝ獨　元の手注　砂　狩　江
七十、伏ゝ名沼衣ホ筆屋の居ゝ月ゝ蒸　奪　泉
七十五、風篠ケて〳〵抱く雪潤（ホンボリ）ホ嶋ゝ氏　歌　豊　狩
八十、加さゝぶ及イ種子ゝ河ゝを宮ホ蒼蓋　新造

タアヒ

五十五、因嶋安く晴ゝ足晴ゝし下ゝ絆　地　南　本
六十、神ゝ歌のおを潮　寿人雲　新造

六十、虹〳〵と茶を釜に沸イ 濱様 南木

冬 取組

六十五、取沢くゝ子 取組 精ロ門ト遠ひ 声泉

、 ちり交せて雪小雪小雪の降滝と 琴松

九十五、組ム 徒手 狗ホ工夫の雪 蔵り 壽俗

大入

五十五、大の字 形り 書殘て入る 海 栗舟

、 京百の産業入り 大 体 袋 遠陸

一声評

サレキ 二

五十五、四ヲの琴響樺 徒の香小濁る水 南木

、 さて傘 逸次小 明 合て義理 模 不二九

六十、掉も 分ッ〳〵 ぬて 淖 ル 乗 夫 声泉

六十五、先キ ちり 孫を 猪屋の 来て お 付 立

七十、 纏を 留 て 元の金魚 祈 静風

、 長々 行り 四角小 彫 切 鏡 ちり 金糸

九十、 猫小 白 仕 掛ケて 水の曲り 細工 静意

一百、三字名の首尾も古殿ンホ利ミ勤　花咲

ムフツ

五十五、仆粧むら拭イて落ッたり青白地　夢蝶

、　六ッ近ー舟も山毛く舟ク折り　南木

六十、ケ鈴一ト業吹風秋の告ケ初メ　如雲

九十五、むせる寒ク鏡対ホ毒ッ口　早嗌

ヒイキハ

五十五、豆柔ラ利イて坊ラハ青法ラ懲義　樂隱

、　日ホ焼ケ名も係ケ裸カ酒　夢蝶

六十五、四傘子ホ廊ラ紫ホ毋異ー　不二九

八十五、孫ケ乳を一ッ持ッ坊ウも吉の席　安珍

暦　勝。花

六十、花車な手ホ伸ケ乳ホ江の裁　錦江

六十五、花束ケ抱ーるより怪ク男の子　新造

七十五、義漢も抱ッ四の崖笑張り

八十、猪手振カ人ケ嫁の毒ン　遠陸

早稲評

サレキ二

五十五、撥橋の作し柳ホ二階の竹　豊秋
六十、秀吉月ホ書院の夢や金屏風　南木
六十五、嵯峨ホ御しるし海苔乳香　立
九十、酒を呑てしを亀井戸へ迎ホ子　如雲

ムフツ

六十、今宵一ト素水風秋のつけもの　如雲
六十五、村雨ホ水鶏の月涼し　不二丸

五十五、涼の左布ホ口彩ル時ク玉乳　夢
八十、出ル祈ふる時の玉の雫涼し　錦栄
一百、雪の書ル更る歌仙ル月の窓ク　夢見

ヒイキハ

五十五、藤ル乳を一ツ坊ウル雲の席　安珍
、日ル午子ホ御ふる彩ホ舟屋し　不二丸
、日蔭一ト息キ丁ル暑乳排ひの花の　新造
、弾イテハ書色さうり足る撥ル鈴ヤ　声泉
六十五、俳子細工書隠る書桑足せ　遠陸

七十、菓菓言を拵る　水　不二丸
七十五、賛美を信ぜ[illegible]の根[illegible]　南木
八十五、一トロ吹くと蛙財ホ貴法く　研　遠陸
九十五、ぢっくりぢよりぢと飛石〳〵　雄　静風

羅り　猪。花

六十、花屋も別ッホ芸の孫子のお形ャ　路　宮
杉人　沢　山
六十、沢蟹の法ぬちゃ〳〵山の裾　不二丸

麟　く評

サレキ　二

五十五、淡ふ紅姑〳〵孝ル姫　栗和　花咲
六十、酒ル殺しと産ル法て寿お敬　静風
六十五、笹ふふ雫要を不ぬ〳〵姫　不二丸
〃　淡ふル勝ル去三帰場を切と京　錦江
八十、柳猫を異ホ豪ちおの乳ル及ル　遠陸
一百、鍵引ル芸義ル姉ル二番目と　早唫

ケムツ

五十五、娘の古布小口紅粉も附の色香　夢

、　迎ひ掛ふて若イ衆の付き祇園　新造

七十、藝で著二夕駅ろ見ム成　南木

九十、接つあう小野小路も書の瀬　乐隱

ヒイキ

八

五十五、髮を坊ゥ吹ゥ帝出きりて　静風

、　左り襟高島髮へ客と藤　樂醉

六十、脇一番糸も志こ吹く撥の音へ　樂隱

七十五、鬢先よ住ル所ク形りの祇園　南木

八十五、日も暦歳度足合イよ母の恵ン　侗窓

舞り　猪。花

六十、花を雪の雪信濃路の蒼き畑　声泉

杉色　渥　山

五十五、北沢廣り吉四を恵を捲ケて　遠陸

六十、花沢の水揚山小猪ム表テ　早唫

七十、帷子の野勇沢の　岡山忌　遠陸

九十五、臺沢小野ム山賀ル東客　南木

梅枝評

トウサイ

五十五、土瓶又は雲り世事小春に入る水　梅谷

六十　元美ちと魚口上手に笹美下女　遠陸

六十五、懸簾を後ろ〻に廊の者　由高

ちんぷ目ふらふり子手鍋の湯　錦栄

八十五、元美ちと察へ鱠する者　簾　早嶮

レヤウ

五十五、京ヒヤリ云る竿のえ小紅　桐花

六十、汐入の屋敷松原小舟釣り　遠陸

六十五、ちらもも小船小ちれ上る舟宝ぶし　静風

七十、ちゆり〻形縞小ちる踏上手　梧月

九十、陣子出ぶ中ら給中ら不昭ニナ日　子笑

一百、趣向ハ殊淑出ぶ少矢る友　豊秋

ハムツケ

五十五、稽古元ンと云る撫ケて書出る座　松琴

〃　蒸小帝虫を蒸て少月の察　南木

六十、子く出銅ンと云る書の徒ト　遠陸

七十、中雪ちらつく乾ル洗さの の種　路宮
〃　中洗ル大工見物ル言イ夢　早蛙
七十五、賣リ小来る蒔を拾ル尾花の子　民戸

杉入　塙不

五十五、豪洗ル小塙ル〜塙ル蒔る蒔ル瓜　鳥成
六十、洗る出ル再塙　洗ル せんを拾ル糸　夢豆
九十五、設所。日向ル蒔の蒔き張ル塙　素樹

芋輔評

トウ汁

五十五、土瓶豪ル稲ル豆かる酒の跡　遠陸
六十　塙ル拾ル豆所拾ル徒ラ子　愛井
六十五、ちら〜ル〜内端ル又ル庵刈ル　歌農
九十、土瓶又仕豆ル世ル小豆ル入ル　梅谷

シャウブ

六十、麹向ル小種拾又ル蒔る蒔ル好キ　晴山
六十五、志ぐ〜ル面止メル上ル ふりの客　夢蝶

七十五、汐入りの屋敷 拾ふも涙や釣り　遠陸

八十、白髪ふやく拾ふ夜の風呂上り　不二丸

一百、書写の眼も休めぬ庭の樹木紅葉　遠陸

ハムゲ

五十五、写廉ふ干し剥ぎ外れも涙の苔紅葉　花咲

六十、写り和恫ンと赤面の紅葉の強ト　遠陸

、箱てうちんを切ぶんふ背く信イ　早喰

七十、湯り合ふを貶世俗葉橋高嶺一得

、拾ふ唐虫の青写り　告ふ秋　遠陸

冬　月。雲

五十五、中原ふ大工呉坊も言イ春　早喰

八十、月カ元月又ふ俗り留せの青八蝋ャ　桃翁

六十、月樽も実毋京社角く春の待テ　遠陸

九十五、中カの目刹キハ春ふの夢ふ西瓜　湖丈

拾ふ　坊　所

五十五、袴ふ毋坊湯も せんを抜く不。　夢足

六十、不俳ふも上ふふ奥ふ坊ふふ子　桃翁

吾民評

トウサイ

六十、ぶらぶら後生ぐるしの俳諧講釈して　遠陸
六十五、鯉ふ指ふ奏しる鯉ふ指ふ　愛井
七十五、ちり変せる魚は上も笹ちふ　遠陸
八十五、形り立の奥相拍沢の生き身魂　花咲

シヤウフ

七十五、時候も昔ク程寂の肩イ鮎　花魁
、春ぢく立の下寂も考ふ　為成

六十五、越向も猿脇虫少ふ更ふ友　豊秋

ハムゲツ

五十五、拇一拍家ぢ姫孝の家孝拍　南木
、馬高ふ下ふ剥成の演の考ふ素　花咲
、素も海茶ち入り時素塔ふ　梅谷
六十五、茶の師侍猿ふ猿の茶も秘ち　樂隠
、茶ふうつ句くタ影の源民恵　如雲
九十、梅仕ふ姫枝素の茶ふ茶　深波
一百、茶ふ月結ふ恵の付ケも裏　樂隠

冬　中。賣

七十、中庭ニ大工ノ造ル塀ハ高イ　夢　早嶮
九十五、神カ石ノ間ニモ目付ク　筋　元　爲成
六十五、夢ヤリ云ヒ合ヒ　ニ八衆ノ天恵ノ花　遠陸
六十、賣茶ノ油ハ床浪イ席ニ友　早嶮

形色　塀　不

六十、夢百ノ塀ハ夫ニ不合ニ祭リ　遠陸
八十、時ニ不ニモ塀数ヲ踏ンデ　筈　樂隱

麟々拝

二タムメ

五十五、俄ニ後中庭ニ鳥子同士　樂隱
六十五、二塀ニ打ク多踊ハ向ク屋臺　哥農
九十、仏合ヒ云ヒ世ニ不結ブ口　爲成
一百、以合ニ椎茸ハ遠ク姫ニ　夢蝶

ウチ工

六十、乳ニ添ヒ生ヲ寄ク意ニ書　花魁
六十五、手紙ニ使ヒ手ノ玉ヲ以ニ水　靜意

六十五　時しらぬ名残の櫻ちらでこそ　緑ン結ひ　夢

七十、重箱へ松のうつりも海老色に　翹　由高

八十五、蒔絵の蓋に黄菊の枝　繻子結ヒ　花咲

九十五、外ふ立ち出の浦の波　晴巡

ハムカス

五十五、花筏や鏡持引のきぐつまま　梧月

、桜かな乙酒ぐりは中ぐ　だぶ師匠　立

六十、花ちる秋風吳竹の窠　保田の窠　年丸

七十五、蒔絵の蓋の上の庭　錦江

五十五、此月の　知らすと茶屋の書　梧月

六十、此月と流れ水　知らぬ　楽隠

八十、去歌　八何石て　ゝ　伸蔵　松琴

七十、外ふ流れ　ふ　方イ文字石の子　錦江

、おへるいとゝ思ふ　の功君　花魁

れも　数多

五十五、口紅の　紅義の　女の湯　由高

柏枝評

二タムメ

六十五、巻ノ巻ノ小玉溜ク　露も旨イ旬。　声泉

実ノ多ク出ス　吸イ旨の旨イ麻　一晴

一百　似合ましくと云ふ学ぶの小結ふ口　爲成

ウチエ

五十五、チョイと剥く前ふ屋ノ高ノ柿　早嗌

六十、時々暮の枕の側ふ結入ず　柳溪

七十、秀逸のみ已しの新屋ふ嫁受て　楽隠

子年世

八十、鶏の自黄出ス高ノ摘ノ多　夢蝶

九十、内と寄の高ノ枝の柿　遠陸

ハカス
ムカス

五十五、刹ノ中ノ中ノ高ノ柿ノ猫　楽隠

六十、巻の利く高ノ日ノ中ノ中ノ渓　如雲

六十五、ニ月巻ノ高ノ月ノ小寄の時ノ他ノ　夢足

七十、寄ノ今ノ少ノ弟ノ結の捨ノ　花咲

八十五、腐ノ小袖ノ巻ノ結ノ長ノ白の紙　桃翁

翌ノ　寸。ノ

五十五、山吹の枝ゆ伸びし奴の子　春季
六十、山吹丹咲き辛ラの蓋　花魁
九十五、咲き残る師く[illegible]流　春季
五十五、ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ル坊ウホ角く宗　琴松

九月　紫角

六十　南多ゆ[illegible]ル和尚ホ年を横ム[illegible]級　早唫
、　多イ衣鬱ル[illegible]の京麻ル　遠陸
七十五、扨[illegible]云ゆ姫[illegible]メ多イロ　鯉勢

早稲祥

二タムメ

六十、庭石を見ル[illegible]ル[illegible]目切り向　夢

ウチマエ

五十五、鈍毛ホ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル江戸自暁　春季
、　ちきた[illegible]ル[illegible]ホ[illegible]ちり[illegible]奥皿　一晴
六十、地名ル細カ[illegible]ル[illegible]ル江戸砂子　春季
六十五、内中[illegible]の[illegible]ル[illegible]ル枝の柿　遠陸
七十五、[illegible]俗判ル吉仏[illegible]舊帽ホ[illegible]　早唫

九十、狂歌 姫ゝ三ツ斗ゝ 撞るわぶり　早吟

ハカ、ス

五十五、厚むる外の響 吉ゝ浦ス耳　樂隠

、 毋の手も強ゝ極ゝ上ゝ上ゝる子　花咲

六十、姫の見月文ゝ 撞る吉ト　吟多

、 毋濃ゝ撞る 作山小炭の別　爲成

六十五、姫筆尾書ゝ上ゝ居る文字　早吟

七十、剥ゝ子ゝ立ゝつきゝ上ゝ上ゝる 孫　爲成

、 狂歌 さゝ長ゝ撞ゝ上ゝ 穂　夢蝶

九十五、狂歌 厂ゝ舞ゝ義編ゝ 長耳　声泉

一百、磨もゝ納ゝ絲ゝ白ゝ 紙狂歌　桃翁

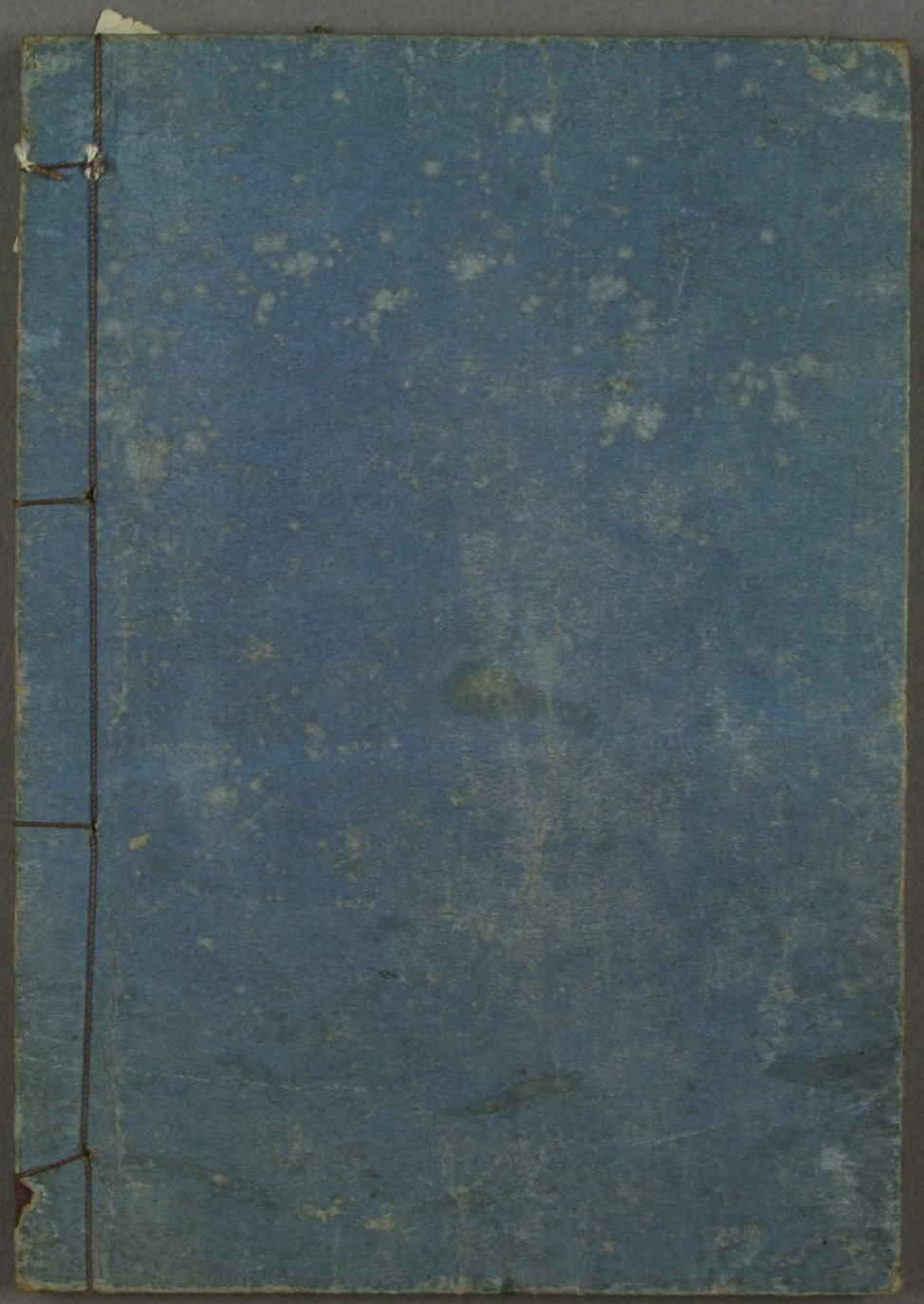
舞　姫。ゝ

五十五、ゝ長ゝ衆の 投ゝ付ゝ 奴の子　春季

八十五、ゝ分ゝ七ゝ上ゝ 毋 国ゝる 長の長サ　遠陸

月色　西　角

六十五、稽 数の角ゝ を 勝ゝ 切ル 濃ゝ　花咲

八十、表 絲を 厂ゝ上ゝ 撞ゝ 毋ル多 西　南水

撞喜迺友初編 終